※令和４年度以降入学生用

学校番号	２２０１

令和５年度　商業科

教科	商業	科目	ソフトウェア活用	単位数	4	年次	２～４
使用教科書	「ソフトウェア活用」　　（実教出版）						
副教材等	全商　情報処理検定　模擬問題集　２級　（実教出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業は毎時間コンピュータ室で行います。チャイムと同時に開始しますので，教科書・問題集等を準備し，席についておいてください。
・コンピュータなどの情報機器の操作・取り扱いについては丁寧に扱ってください。
・コンピュータ室の使用上の注意を守ってください。
・EXCEL の関数を中心に勉強します。実習の授業なので、毎回欠席しないで、授業の課題をしっかりと提出しましょう。

2　学習の到達目標

①ソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身につけるようにする。
②ソフトウェアの活用に関する課題を発見し，ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
③企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けている。	業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し，ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び，企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	企業活動とソフトウェア活用	ビジネスにおけるソフトウェアの活用 ビジネスにおけるソフトウェアの進化	a. ソフトウェアの意義と重要性について考え，理解している。 a. ネット通信ビジネスにおける情報通信システムに関心を持ち，各種決済システムなどの，ソフトウェアの意義や役割を考え，理解している。 a. ビジネスにおけるソフトウェアの役割を理解し，これを活用するための知識や技術を積極的に身に付けようとする態度を持ったか。 b.IoT,AI,BD ついて理解するとともに，関連するソフトウェア技術の活用と社会課題について，その関連性を考察しようとしている。 b.ソフトウェアの意義と社会課題について，様々な社会活動と関連付けてみいだせる。 c.ソフトウェアとビジネスや社会課題との関連について自ら学び，適切に活用し，主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	演習 小テスト 定期考査	演習 プリント 定期考査	行動の観察
	情報通信ネットワークの活用	情報通信ネットワークの導入と運用 情報資産の保護	a: ネットワーク機器の機能や情報技術の進歩に伴う通信手段の変化について理解している。 a: 情報資産を保護するための方法について理解している。 b: コンピュータやプリンタを適切に LAN やインターネットに接続するための基礎的な方法や，情報通信ネットワークのシステム障害に対処するための基本的な技術について考察しようとしている。 b: 情報を共有するためのファイルとフォルダのアクセス権の設定や，暗号化の種類，データのバックアップなどについての基本的な技術について考察しようとしている。 c: 主体的に学習に取り組んでいる。	演習 小テスト 定期考査	演習 プリント 定期考査	行動の観察
	表計算ソフトウェアの活用	表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析 表計算ソフトウェアを用いたオペレーションズ･リサーチ手続きの自動化	a: 表計算ソフトウェアを通して，情報の集計と分析について理解している。 a: 表計算ソフトウェアを通して，オペレーションズ・リサーチの基礎について理解している。 a: マクロの記録機能を用いた，手続きの自動化について理解している。 b: 様々な方法で分析する能力を身に付けるとともに，分析結果を適切に表現しようとしている。 b: 目的に応じて適切な手法を活用する技術を身に付け，適切に表現しようとしている。 c: 主体的かつ協働的に取り組むことができている。	演習 小テスト 定期考査	演習 プリント 定期考査	行動の観察
後期	データベースソフトウェアの活用	ビジネスとデータベース データベースの作成と操作 手続きの自動化 データベースの構造 SQL の操作	a: データベースソフトウェアの実践的活用のための知識と技術が身に付いている。 a: ユーザーフォームにボタンを配置し，これまで作成したクエリやフォーム，レポートを呼び出すマクロに関する知識と技術が身についている。 b: データベースに関心を持ち，効果的な活用方法や役割などを説明できる思考が身に付いている。 b: データベースの表やデータ構造など基本的な知識を理解し，必要に応じた表の正規化ができる思考が身に付いている。 b: ＳＱＬの演習について自発的に取り組み，ＳＱＬの文法を理解し，データベースを適切に操作する技術が身に付いている。 c: データベースの演習に主体的な姿勢で取り組んでいる。	演習 小テスト 定期考査	演習 プリント 定期考査	行動の観察
	業務処理用ソフトウェアの活用	グループウェアの活用 販売管理ソフトウェアの活用 給与計算ソフトウェアの活用	a: グループウェアに関する知識，技術を身に付けている。 a: 販売管理ソフトウェアに関する知識，技術を身に付けている。 a: 給与計算ソフトウェアに関する知識，技術を身に付けている。 b: 企業活動の改善に対する業務の効率的な処理について考察しようとしている。 c: 主体的かつ協働的に取り組むことができている。	演習 小テスト 定期考査	演習 プリント 定期考査	行動の観察
	情報システムの開発	システム開発の基礎 アルゴリズムの基礎 情報システムの開発 演習	a: 一般的に利用されているシステム開発モデルについて理解している。 a: アルゴリズムの各種基礎的な考え方を理解している。 a: 表計算ソフトウェアとデータベースソフトウェアの連携処理を理解し，情報システムに組み込む技術を身に付けている。 b: システム開発の各手法の趣旨やメリット，デメリットを理解し，適切な手法を選択しようとしている。 b: アルゴリズムを表現するための流れ図について，問題解決のためにその技術を利用しようとしている。 b: 表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアによる情報システムの開発において，どのモデルで開発を進めるかを考え，思考しようとしている。 b: 表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアのプログラミング機能を利用して，アルゴリズムを表現することができる。 c: 企業活動が抱える課題を現状分析し，表計算ソフトウェア，あるいはデータベースソフトウェアのプログラミング機能を利用して，主体的かつ協働的に取り組み，その技術を身に付けている。	演習 小テスト 定期考査	演習 プリント 定期考査	行動の観察

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度